

ブラジルから少年 少女使節団が訪問

青谷高生と交流 日本文化を体験

ブラジルで日本語や日本文化を学ぶ日系人の生徒を中心とした少年少女使節団が20日、鳥取市青谷町青谷の県立青谷高を訪れた。同校の生徒が、祭りの縁日をイメージして射的や「輪投げ」などを用意。交流しながら日本文化を体験した。

使節団は、サンパウロ市

のブラジル松柏学園・大志万学院で日本語などを学ぶ14〜18歳の生徒30人。先月



下旬に来日し、東京都や京都府、北海道など全国を約50日間で回る。鳥取県には

1月19日から5日間の日程で訪れている。

青谷高の生徒らは、体育館に射的や輪投げなど五つの遊びを準備し、縁日を再現。使節団の生徒

紙コップに狙いを定め、射的を楽しむ生徒ら。20日、鳥取市青谷町青谷の青谷高

らは5グループに分かれて各体験に挑戦した。射的では、積み上げた紙コップに狙いを定め、全て倒れると大きな歓声が上がった。

箸で豆をつかんで紙皿に移す「豆つかみ」では、器用に箸を使い、1分間に20個以上つかんだ生徒もいた。団長の中林片岡敬二ルカズさん(18)は「同年代と一緒に、日本の縁日を体験できて楽しかった」と喜んだ。

(浜中裕一朗)